

## 議題に関する補足説明資料

### 1 評価の目的と審議会の皆様に求める役割について

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、いわゆる地方創生がスタートしたことに伴い、本市におきましても、国の各種交付金を活用して様々な事業を推進してまいりました。

この交付金は、それぞれの市町村が事業設計を自由に行うことを可能にするとともに、明確な政策目標の下、客観的な指標の設定やPDCA等の効果検証体制の整備を求めるといふ新しいタイプの交付金でございます。

総合計画審議会の皆様におかれましては、この交付金に対する効果検証を行う組織としての役割をお願いしているところでございます。

### 2 議題(1) 総合戦略 KPI の令和元年度実績報告及び効果検証

地方創生に係る国の交付金を活用して実施した事業について、その効果検証として、皆様の5段階評価と意見をお願いいたします。

#### (1) 地方創生関係の交付金について

始めに、【資料1-1】「地方創生関係交付金の概要（イメージ）」より、地方創生関係交付金からの概要をご説明させていただきます。

資料の一番左、緑色部分の「基礎交付」については、各団体の人口などに応じて交付されたものであり、東金市では約5,000万円の交付を受けました。その横から、緑色の「上乘せ交付」、オレンジ色の「地方創生加速化交付金」、黄色部分の「地方創生推進交付金」、青色の「地方創生拠点整備交付金」と、これら全ての交付金を受けてまいりました。このうち、「加速化交付金」までは、かかった事業費の100%が国から交付されるものでしたが、今回ご審議いただく青色部分「地方創生拠点整備交付金」については、事業費の半分（2分の1）が国から交付され、残りは市の一般財源を用いて実施するものとなっております。これらの交付金は、これまでの補助金に比べ自由度が高い分、内部の評価だけでなく、外部による効果検証を行うことが求められています。

これを受けて今回は、「地方創生拠点整備交付金」を活用した「6次産業化拠点施設整備事業」について、外部による効果検証として評価・意見をいただきたいと思っております。

#### (2) 6次産業化拠点施設整備事業の効果検証について

【資料1-2】「地方創生拠点整備交付金事業（令和元年度分） 効果検証シート」をご覧ください。地方創生拠点整備交付金を活用した事業になります。

この交付金の対象は、地方創生に資する建物等を建設するためのハード面に係る事業費の半分であり、本市の対象事業である「6次産業化拠点施設整備事業」の交付額は、4469万1420円です。

「6次産業化拠点施設整備事業」では、道の駅みのりの郷東金に、6次産業化の推進

と交流の促進を図る「加工施設」と地域観光のプラットフォームとして「観光案内所」を整備しました。これらの整備を活用し、地域資源を活用した特産品の創出やワンストップによる地域内への回遊の仕組みづくりを行なうことで、交流人口の拡大や農業をはじめとする地域産業の活性化を推進しようとするものです。

重要業績評価指標（K P I）としては、3点ございます。

① 東金市を訪れる観光客（交流人口）の増加

目標142万人に対し、実績133万人でした。

② 東金市を訪れた観光客の消費総額

消費総額は観光入込客数に県が示した消費単価を乗じて算出しており、目標104億8600万円に対し、実績90億1500万円でした。

③ みのりの郷東金（直売所）における売上高

直売場の売り上げのみについて設定したものであり、目標6億2300万円に対し実績5億7600万円でした。

これらを受けた内部評価として、内閣府から示された指標により5段階で評価を行い、評価の結果を国に報告する必要があります。

本年については、3つの指標全ての実績値が目標を下回っており、また、令和元年度末にかけて新型コロナウイルス感染症による影響もあり、3つの指標のうち2つの実績値が前年を下回る結果となっております。しかし、基準値と比べた実績値は、3つの指標全てが基準値を上回る結果となりました。

これらの結果を踏まえ、内部評価としては、3番目「地方創生に効果があった」といたしました。

新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響は非常に大きいものでした。この3つの指標の実績値にも大きく影響与えるものと思われ、With コロナや After コロナの社会において、この3つの指標の実績値の変化にも注視してまいりたいと思います。

### 3 議題(2) 「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和元年度における効果検証

「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、掲げた目標に対する効果検証として、皆様のご意見をいただければと思います。

(1) 総合戦略について

始めに、【資料2-1】「東金市版人口ビジョン及び総合戦略(九十九里地域広域連携)の概要」より、総合戦略の概要をご説明させていただきます。

全国的な少子化などにより日本の人口は減少傾向にあり、本市においても例外ではありません。

国の研究機関によると、本市の人口は、2060年に約34,000人まで減少するとされており。さらに、高齢化により高齢者の人口が現役世代を上回り、今までと同じような行政サービス、社会保障制度が維持できなくなることが想定されます。本市

としては、2060年に人口約50,000人を維持すること、さらにはバランスの良い世代構成を維持することを目標として平成27年度から令和2年度までの6年間で力を入れてやるべきことをまとめたもの、これが「総合戦略」となります。

この総合戦略では、人口の維持に向けて、「げんきづくり」、「みらいづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」、「きずなづくり」の5つの点からアプローチを行い、それぞれ達成するためには何をすれば良いのかを具体的にまとめています。また、言葉だけの目標や施策だけでは進捗状況や達成度が分かりにくいいため、細かな数字で見える目標を設定し、それらの数値がどう変化していくのかを追っていくことで、この戦略がどこまで進んでいるのかを計るものとしています。

その数値を抜粋して作成したものが【資料2-2】「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和元年度における効果検証」となります。

(2) 「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和元年度における効果検証について

【資料2-2】「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和元年度における効果検証」より、主な施策の進捗状況とその進捗状況に基づく総合評価などをご説明します。

◆ 全体の標記について

表左側の基準値欄の数値が総合戦略策定以前の数値である基準値となり、実績として平成27年度から令和元年度の実績値を記しています。

表右側の進捗状況は、これまでの実績を踏まえて「S」から「D」までの5段階評価を記載しているので目安としてください。

5段階評価の基準につきましては、

- ・ S：目標以上を達成
- ・ A：概ね目標を達成
- ・ B：目標達成に向け順調に推移
- ・ C：やや目標達成困難
- ・ D：目標達成困難

となります。

◆ 「(1) げんきづくり for VITALIZATION」について（1ページ～）

これは、魅力ある町をPRすることにより人を呼び込もうとするものです。その進捗状況を把握するため数値目標をそれぞれ設定しております。

主なものとして、基本目標の「人口の社会増」については、総合戦略策定以前の基準値を年間マイナス198人、一番右の目標値として100人を掲げておりますが、令和元年度の実績値としてはマイナス207人となっており、進捗状況としては目標達成困難として「D」としております。対照的に、同じ基本目標の「観光入込客数の増加」については、基準値72万人、目標値108万人に対して、令和元年度実績で1,330,106人となっており、目標以上を達成として「S」としております。

これらの進捗状況をもとに、2ページに「(1) げんきづくり for VITALIZA

TION」についての総合評価を記載しております。

観光入込客数や公共施設の満足度において、目標を上回るものや目標達成に近いものがある一方で、人口の社会増のように数値が大幅に悪化して目標達成が難しくなっている項目もあることから、全体としての評価は「C」としました。

◆ 「(2) みらいづくり for NEXT GENERATION」について(3ページ～)

これは、子育てしやすい環境を整えることで少子高齢化に歯止めをかけようとする視点となっております。

施策1の「保育所の待機児童数」は、基準値6人、目標値0人に対して令和元年度実績で0人となっており、進捗状況としては、目標以上を達成(S)として評価しております。一方で、基本目標の「合計特殊出生率」、施策2の「婚活支援事業の参加人数」や施策3の「不登校児童・生徒の人数」などの目標については、達成が困難(D)となっております。

これらの進捗状況をもとに、「(2) みらいづくり for NEXT GENERATION」の総合評価は、やや目標達成困難として「C」としております。

◆ 「(3) まちづくり for COMFORTABLE CITY」について(5ページ～)

これは、住みやすいまちをつくり人が安心して集い暮らせるようにしたいという視点となっております。

施策1の「防災施策に関する市民満足度」や施策3の「交通事故発生件数」では目標を達成(S)しておりますが、施策1の「高速バス本数」や施策2の「みよりの郷東金の来場者数(直売所レジ通過者数)」については、目標の達成が困難(D)な状況となっております。

これらの進捗状況をもとに、「(3) まちづくり for COMFORTABLE CITY」の総合評価は、目標達成に向け順調に推移しているものとして「B」としております。

◆ 「(4) しごとづくり for JOB CREATION」について(7ページ～)

これは、地域に雇用を創出し働きやすい環境を整えることを視点としております。

施策4の「看護師養成修学資金貸付制度を利用し、東千葉メディカルセンターに就職した人数」で目標を達成(S)しており、基本目標の「勤労者対策施策に関する市民満足度」や施策2の「新たな産業施策に関する市民満足度」などでは概ね目標を達成(A)することができています。一方、施策2の「創業相談件数」や施策3の「ワークライフバランスに関するコンサルタント数」については、目標の達成が困難(D)な状況となっております。

これらの進捗状況をもとに、「(4) しごとづくり for JOB CREATION」の総合評価は、目標達成に向け順調に推移しているものとして「B」としております。

◆ 「(5) きずなづくり for FRIENDSHIP」について(9ページ～)

これは、周辺地域と連携して地域全体の利便性を高め、人を呼び込もうという視点と

なります。

施策2の「友好都市との交流者数」では目標を達成（S）しておりますが、基本目標の「地域間連携が進んでいると感じる市民割合」については、目標の達成が困難（D）な状況となっております。

これらの進捗状況をもとに、「(4) しごとづくり for JOB CREATION」の総合評価は、やや目標達成困難として「C」としております。

◆ 新型コロナウイルス感染症が与える影響について

議題(1)のご説明でも申し上げたように、この総合戦略の実績値においても新型コロナウイルス感染症の影響によると思われる数値の変化が見受けられました。令和2年度の実績は、令和元年度よりも大きな影響があると思われます。With コロナや After コロナの社会におけるこの実績値の変化に注視してまいりたいと思います。